

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

**事業所名**

日だまりハウス

日付

平成20年2月6日  
特定非営利活動法人

**評価機関名**

ライフサポート

評価調査員

介護支援専門員経験5年

評価調査員

在宅介護経験15年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

**1. 評価結果の概要**

**講評**

全体を通して(特に良いと思われる点など)

ホームを訪問すると、代表者・管理者・職員達と一緒に可愛い子供達の出迎えを受けた。祖父母と親・子・孫の四世代の家の様で、一瞬ここがグループホームである事を忘れそうになる。若い職員が子供達を連れて来ているようだ。ミルクを飲ませてもらいながら育った子供達は利用者の名前も覚えていて、一緒に塗り絵をして遊んでいる。“日だまりっ子”達も立派なホームの一員だ。「今、朝の掃除が終わったところです」と職員が教えてくれた。利用者達は、自分の居室は自分で掃除し、寝たきりの人の部屋は動ける人がしてあげて、廊下やリビングの床は横並びに並んで拭いていき、毎日皆で手分けして拭き掃除をしているようだ。「白菜取って来てもらえるかなあ」頼まれた利用者が畑へ白菜を取りに行く。彼は農作物の担当だ。ホームをぐるりと囲んだ畑には白菜・なす・ねぎ・大根・ミニトマトと様々な作物を植え、稲作までしていると聞いて吃驚した。今まで多くのグループホームを訪ねたが、ここまで本格的な広い田畑は初めてだ。「ここに来て生まれて初めて耕運機を使った」と管理者は笑う。少し買い足す時もあるが、米と野菜は殆ど自給自足、採れたて新鮮食材がホームの食卓を賑わせている。種まき、草取り、収穫も、利用者や職員や代表者の家族でこなしているようだ。代表者の家はホームと同じ敷地内にあり、代表者は家族ぐるみでプラスの力として常に職員と共に利用者を支えている。「何かあれば、夜中でもいつでも私に言ってくれば良い。利用者を一人の人間として認めてあげる心があればこの仕事は出来る。大切なのは心ひとつ」と代表者は言い、職員の資格には拘らず、ここに修行に来て、人間性を磨き、魂の向上を図って欲しいと考えている。管理者はそんな代表者が大好きで、自分の母親よりも頼りにしている。“地域の駆け込み寺を作りたい”との思いだけで設立したホームは、利用者・職員の垣根や仕事の枠を越え、大きな広がりを見せている。代表者の四人の子供もいつしか介護の道を志し、夫や舅もホームの運営を助けてくれるようになった。グループホームに併設して、小規模多機能ホームも開設予定だとも聞いた。「心ある人が縁あって、ここで働き学ばされている。願うのは皆の幸せ！私は夢見るおばさんです」何でもプラス発想のパワフルな代表を中心に遙かな山々を背景に田園風景が広がるこの地に、日だまり村が誕生する日は近そうだ。

特に改善の余地があると思われる点

ホームはターミナルまで視野に入れた支援を考えていると聞いた。ならば尚の事、家族との連携は非常に大切だ。利用者、代表者や職員の家族ぐるみで、畑作業等も含めたホーム全体の運営をしているが、今後は少しずつ家族にも手伝って貰える仕事を分担していったら如何だろう。管理者から通院介助にもっと関わって貰おうと考えているとの声を聞いた。とても良い事だと思う。ホームに任せただけで安心ではなく、家族にしか出来ぬ役割がある事を理解して貰ってこそ、共に協働しての看取りが出来る。利用者にとって介護のし過ぎが良くないように、家族にとってもホームに任せ過ぎは如何だろう。検討して欲しい。

## 2. 評価結果 (詳細)

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>自主評価について…：特に改善項目はないが、下記の状況をみれば十分に出来ていると判断している。</p> <p>全体的に見て…：ゆったりした自由な暮らし、自信と安らぎのある暮らし、安全と衛生の保たれた暮らし、能力が最大限発揮出来る暮らしを実現出来るサービスを提供する事を目指し、主役は利用者であると、理念で明確に掲げている。何でも職員にして貰う受け身のやり方は、利用者にとって良くない。利用者にも出来る事はして貰う“ここは皆です所”がホームのルールだ。主役はお客様ではなく、ここで共に暮らす生活者だ。ホームはどの出入り口も施錠なし、玄関だけでなく居室やリビングの掃き出し窓から自由に出入り出来る。職員も利用者も、互いに助け合い、見守り気遣いながら、それぞれの役割を果たし、ありがままにのびのびと暮らしている。</p>		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>自主評価について…：より深くアセスメントを行い、それを介護計画に生かし、本人・家族・職員が認識を共有しながら適切な見直しを実施していこうと考えている。現状に満足する事なく、より良くしていこうと研鑽を積んでいる。前向きな取り組みは大きな成果をあげるだろう。</p> <p>全体的に見て…：木の温かみ溢れる平屋の建物のホームの周囲には、広い田畑と庭がある。大きな掃き出し窓からは暖かい陽射しが入り見晴らしも良く、農作物の成長も楽しめる。今まで住んでいた自宅と似ているからこのホームに入所した人もいる。一段高い畳の間には神棚と火爐があり、広い廊下の両側は和室と洋室の居室がある。掛け時計や花の額を壁に飾り、藤の物入れや観葉植物を置いたトイレは新鮮な驚きだ。普通の家庭のトイレ以上にリラックス出来るようだ。</p>		

### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>自主評価について…：現実に日常のケアマネジメントとしている事から考えれば問題はないが、書面に効率よく残せるよう改善していきたいと意欲がある。</p> <p>全体的に見て…：食後には、洗い物担当の利用者達が流し台に集結する。洗剤をつけたスポンジで食器を洗う人、それを水ですぐ人、更にその後食器洗い機に並べて入れる人と手慣れたスピーディな仕事ぶりだ。「あっちは北だる、北枕はおえん!」「あんた、そっち引っ張って」利用者達は毎日協力して自分達の布団を敷く。リビング横の畑はAさんの畑だ。長年農業に携わって来た彼は農作業を担当している。寝たきりの人の水分補給の為に、職員がとろみをつけゼリー状にしたものをスプーンで口元に運んでいると、傍にいた利用者が手助けをする。「はい、あーんして」仲間同士のやり取りを、職員が暖かく見守っている。職員・利用者の区別無く、出来る事を助け合うのは当たり前、共に暮らす安らぎと信頼に満ちた日常がここにある。</p>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>自主評価について…：現状を見れば新たに改善していく必要性は感じない。</p> <p>全体的に見て…：“人間が大好き！老人と子供は特に大事”人情味溢れる代表者は、昔から近所のお年寄りをレストランや買物に連れ出したり、小学校の読み聞かせや託児ボランティアを引き受けたりと、地域との付き合いを楽しんできた。その人脈は幅広く、近隣・小学校・中学校等地域全体から受け入れられ、学童保育もして欲しいとの要望も出ているそうだ。ホームの庭を会場に開催する夏祭りは地区の恒例行事となっている。代表者・職員は家族ぐるみで焼きそば・散らし寿司・ジュース・かき氷等の屋台を作り、無料で提供している。近所の人や家族連れで訪れ、ボランティアの人は歌や盆踊りで盛り上げてくれる。他のグループホームにも声を掛けて交流を図っている。“日だまりの輪”がどんどん大きくなり、地域のリーダーとなる事を期待している。</p>		